

戦闘における航空機

4機種の兵器の権威

AIRCRAFT

WARFARE

THE BIRTH OF THE FORTY-ONE



ランチェスター戦略の 知られていない事実

【マル秘メルマガ】より 8通目その1

「先生の経歴」

2. ランチェスターは有名なプロペラの研究者であったも、間違いだった

ランチェスター戦略の本を書いたり講演をする人のほとんどが、「ランチェスターは航空工学のエンジニアで、有名な『プロペラの研究者』でもあった」…と説明しています。

私も初めはこう思っていました、これは間違いであることが解りました。

ランチェスター先生の墓参りに言ったとき、ランチェスター先生の1番下の弟ジョージの妻「メリー」さんの家を訪問しました。

このときに夫の「ジョージ・ランチェスター」が、兄のフレデリックについて書いた「フレデリック・ランチェスターの経歴と実績」について記した原稿のコピーをもらいました。

これ以外では、伝記作家キングスフォード氏による「ランチェスターの生涯」という本を、コベントリー大学の図書館からもらいました。

この2つの資料によると、確かにランチェスター先生は飛行機に対して特別強い関心を持っていましたが、どこを探してもプロペラの研究を何年もしたという記事が出て来ないので。

ではまずこれらの資料をもとに、ランチェスター先生の経歴を簡単に説明しておきましょう。

a. 航空理論を2年間研究

ランチェスター先生は1868年10月28日ロンドン南部のルイズハムで生まれています。

サザンプトン大学の前身である機械技術の専門学校を20歳で卒業したあと、1888年の終わり頃、バーミンガム市にあるバーカー氏が経営する「ガスエンジン会社」に入社しました。

ガスエンジンとは石炭を原料にして作った「都市ガス」を燃料として動く内燃機関で、英国だけで使われています。

ランチェスター先生はこの会社に勤務中に、いくつもの特許を取っています。入社から5年後の1893年、25歳のとき、特許による収入が多くなったことで勤め先を辞めました。

そして、前の年から研究していた飛行理論の研究に力を入れています。この時、長さ120cmの大型模型ゴム飛行機を作り、飛行実験をしています。

このときの写真が今でも残っています。

それとともに、1892年と1893年の2年間で飛行理論の研究をしたものを、論文としてまとめています。

このときに発見したのが翼の端から発生する「渦の流れ」で、専門用語では「翼端渦流」と呼んでいます。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>